援

職

市は、



建設課 松瀬浩課長 (10月1日~31日まで派遣)

宮城県本吉郡南三陸町に着任し挨拶を済ませた後、隣町のアパートを 紹介していただいた。どうしてこんなに遠いところのアパートなのか少 し疑問だった。翌日町内を廻って目にする光景は、津波で流された家屋 の基礎ばかりである。集落が、町がすべて流されている。町民の方たち は集落単位での仮設住宅で生活をされている状況であり、復興にはまだ まだ時間がかかる。今は最低限の生活ができる復旧を望まれている。 のような状況のため、隣町のアパートからの通勤となってしまうのである。

私が配属された部署は「建設課施設整備係」。この町の基幹産業である 漁業の基である漁港を整備する部署であり、漁民の方たちの期待も高い。 しかし整備の基準となる地面の高さが地震で動き、困難を極めている。 地震による大陸棚の沈下で、場所によっては80cmから1mも下がってい る。満潮時には漁港施設や道路が浸水してしまう状況のため、1日も早い 復旧を望む声を聞く。

町としては最優先に復旧事業を推進しているが、限られた人員では限 界がある。町職員10人に加え、全国から集まった派遣職員や任期付職員 を含め総勢29人態勢で対応に追われている状況である。しかし、私が最 初にかけられた言葉は「焦ることはナカンベ、ゆっくりでエエカラ」と のねぎらいであった。

町の職員はみんな何とかしようと一生懸命である。震災から1年7か 月経ち、町の人たちは心の落ち着きを取り戻し始めている。今からが本 当の復旧・復興の始まりだと思う。

今後、多久市として人的支援を行う予定であるが、「何かをやるのでは なく、町の人たちと一緒に頑張る」ことを第一とする気持ちで支援にあ たってほしい。やる気を持って何事にも挑めば、相手にも心は伝わる。

ければ生業もままならず、

生活と希望をつなげな

き。相続書類が揃わないと円滑には進みません。

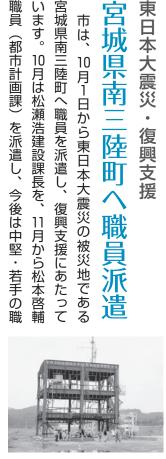
主産業は水産業で、港湾復旧も要です。できな

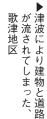
が不可欠。突貫工事の前には土地所有の移転手続

全世帯高台移転です。

それには山を削り土地確保 住宅地にはできません。

土地は6m程沈下し、





員が交代で2~3年間支援をしていく予定です。

▶南三

陸町防災センター

今回支援にあたった松瀬課長がその報告をします。



市長コラム

|故|創|新

のドラマがあったと物語ってくるようでした。

こにわずかに残った道具類が、

そこに人々の日々

炎庁舎は津波の衝撃を物語っています。そこかし された建物には破壊の爪跡が刻まれています。 Message for citizen

[町への人的支援を始めました。

設。河口堰も全壊。 を持ち去った跡です。 く見みると、住宅基礎だけ。

津波がまるごと建物

.で痛感しました。夏草で緑の集落や住宅地をよ

被災地は苦難の中にあることを8月末の現地訪

ています。

広い空間となった市街地にわずかに残

堰の管理棟は大破して転がっ

道路は通れますが、

橋は仮

えるためにも、 10月から南三陸町へ人的支援を始めました。 くして復興進まず」という切実な実情を鑑みて くなります。 復興はまだ緒についたばかりの感です。「人材な 技術的にも事務的にも仕事山積なのです。 コンビニも商店もプレハブ仕立て。

引続きの支援へ、 「被災地を忘れないで」。 被災地の人々のことを心にとめ 理解と応援をお願いします。 そんな現地の願いに応

被災地復興に人的支援を開始

ません。 東日本大震災の被災地復興には そこで多久市も10月から宮城県南三 人的 支援が欠か

横尾俊彦